

File No. 100

焼津市立総合病院
岩倉圭佑

はじめに

焼津市立総合病院は、静岡県焼津市道原に位置する地域の中核医療機関である。一般病床423床を備え、救急医療から高度専門医療まで幅広く対応している。国や県から災害拠点病院、地域医療支援病院、静岡県地域がん診療連携病院、地域周産期母子医療センターなどの指定を受けており、救急医療においては一次、二次のみならず一部の三次救急まで対応し、焼津市を含む志太榛原地域の医療に貢献できるよう努めている。

当院では2台のCT装置が稼働しており、頭部、体幹部、脊椎、四肢関節、心臓、血管系、小児などの幅広い検査を行っている。2022年9月に導入より約15年使用した装置からキヤノンメディカルシステムズ社製Aquilion Serve (図1)へ更新した。導入により、検査時間の短縮とワークフローが効率化し、円滑な検査と迅速な画像提供が可能となった。

Aquilion Serveはミドルレンジモデルでありながら、最新機能が数多く搭載されている装置である。本稿では、導入から約3年間の使用経験にもとづき、本装置の特徴や推薦したい機能について紹介する。

新しいプラットフォーム

Aquilion Serveは2022年4月に販売開始した新世代80列マルチスライスCTであり、CT装置筐体及びコンソールに大幅な変更がされ、新しいプラットフォームとなっている。そして、フラグシップモデルであるAquilion ONE/INSIGHT Editionはこの新しいプラットフォームが搭載されている。新しいプラットフォーム搭載のCT装置は、今後市場における導入割合が増えることが予想されるため、概要について紹介する。

筐体の特徴として、全体的にシンプルでつやのあるデザインとなった。新たにガントリ内蔵カメラとタッチパネルが追加された。開口径は800mmとワイドボア化により、体幹部撮影時の両上肢挙上で肘が曲がってしまう場合や、頭部撮影時の枕を高

Aquilion Serveが 生み出す可能性



図1 当院に導入したAquilion Serve

くした場合など、より安全な検査につながっている。寝台左右動は±85mmと大幅に増え、上肢の撮影など幅広い検査に対応するとともに、簡便に患者自体をガントリ中心へポジショニング可能である。

コンソール画面は27インチワイドモニターへと大型化し、画像の視認性が大幅に向上した。インターフェースは左から右へ流れる直感的なワークフローを採用(図2)。操作パネルも最新の人間工学に基づいて刷新され、快適な操作環境を実現している。設定画面は撮影に関わる「Scan」と、再構成に関わる「Reconstruction」の2種類のみでとてもシンプルである。普段は最低限の情報に集約されており、詳細設定はタグを展開すれば1画面で確認可能である。field of view (FOV) やスキャン範囲設定、撮影方向なども位置決め画像上で確認でき視覚的にわかりやすい。再撮影と継続撮影もスムーズに行えるように工夫されている。撮影中のリアルタイム再構成が保存されているため、撮影後はすぐに画像確認可能である。再構成時間は100画像/秒と高速である。撮影終了後、患者を退出させている間に再構成処理が完了するため、即座に画像作成・提供を実現し、検査ワークフローの効率化に貢献する。

このように新しいプラットフォームは直感的な操作が可能で大変扱いやすいため、是非お勧めしたいモデルである。